

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の目安がついた段階で、整備方針等の検討を行う。また、松戸市とは、基本協定の事業期間を変更するが、早期に完了できるよう事業期間を検討する。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	整備時期は未定であるが、整備の目安がついた段階で、整備方針等の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討は行えなかった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①主要な水路 ②その他の水路	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流末としての施設の確保及び流下能力の向上等を目的とした暫定改修や、上流域の流末としての機能確保のため、50mm/hrの降雨に対応した改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設について将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	紙敷川改修事業として、松戸市主体によりL=20.7mの河川改修を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	主要な水路の暫定改修実施率	6.50	6.50	6.50	%	業務取得
	ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.60	2.60	2.60	%	業務取得
	iii	浸水面積(河川水路)	31.9	31.9	31.9	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	2,859	1,482	金額(千円)	内容	5,267		
国支出金(千円)	0	0	1,482	紙敷川改修事業負担金	0		
県支出金(千円)	0	0			0		
市債その他(千円)	0	0			0		
一般財源(千円)	2,859	1,482			5,267		

IV 評価・検討

①課題	下流河川の整備の目安がついていないため、50mm/hrの降雨に対応した整備に取り組めない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮した暫定改修については実施する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	・紙敷川改修負担金	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	・紙敷川改修負担金	4,002	4,002	当初	4,002	1,482	H28からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0			
③達成状況	未完了			補正	0		現年分	1,482
④未完了・非着手の理由	紙敷川改修負担金の一部についてH30へ繰越したため。			流用・充当	0			
		平成30年度への繰越額(単位:千円)		1,694				

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	下流河川の整備が進んできたことにより、上流部でも将来形の整備を行っていく。また、将来形を見据えた暫定的な整備を行うしかない箇所では、将来の整備に後戻りの無いよう効果的な手法の検討を行う。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	下流河川の整備が進んできたことにより、上流側でも将来形の整備を行っていく。また、暫定的な整備を行うしかない箇所では、将来的な整備を考慮したうえで、効果的な手法の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流下能力の向上と護岸の保護を目的とした暫定改修や、50mm/hrの降雨に対応した改修などの計画策定を行い、上下流の状況を考慮し段階的な河川の改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。下流側の整備が進んできている場所もあり、市域の河川整備が可能な場所もある。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>二和川護岸改修工事(第30期)において、L=8.2mを改修した。</li> <li>二和川バイパス整備工事にて、L=42mを整備した。</li> </ul>						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	暫定改修実施率	21.08	21.70	21.78	%	業務取得
	ii	50mm/hr改修実施率	11.42	11.42	11.42	%	業務取得
	iii	浸水面積(1級河川、準用河川)	81.5	81.5	81.5	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	137,227	105,124	金額(千円)	内容	623,907		
国支出金(千円)		25,000	47,354	二和川バイパス整備工事	157,405		
県支出金(千円)			15,931	二和川護岸改修工事(30期)	0		
市債その他(千円)	51,900	79,103			434,034		
一般財源(千円)	85,327	1,021			32,468		

IV 評価・検討

①課題	河川改修は下流から行うのが原則であるため、現時点で最も効果のある箇所を選定し、将来的な整備を考慮して実施する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	浸水被害により、市民の生命・財産に被害が及ぶ恐れがあるため、速やかに河川改修を行う必要性があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	二和川護岸改修工事(第30期)、二和川バイパス整備工事、二和川護岸改修工事(第31期)、二和川バイパス整備工事(第2期)	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	二和川護岸改修工事(第30期)、二和川バイパス整備工事を完了した。	333,710	494,910	当初	333,710	105,124	H28からの繰越	70,656
				H28⇒29繰越	91,148			
③達成状況	未完了			補正	70,227		現年分	34,468
④未完了・非着手の理由	二和川護岸改修工事(第31期)、二和川バイパス整備(第2期)工事はH30へ繰越したため。			流用・充当	-175			
		平成30年度への繰越額(単位:千円)		367,524				

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額 等級
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、過年度から進めている箇所整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な最も効果のある整備手法の選定を行う。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	過年度から進めている浸水箇所の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある場所を選定する。
②①に基づく取り組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	浸水被害の直接的な原因が地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、接続する河川・水路の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第3期)にて95mの整備を行った。</li> <li>・道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事にて延長約80mの整備を行った。</li> <li>・浸透樹設置モニター工事にて浸透樹を17基設置した。</li> </ul>						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	整備工事完了・着手箇所数	21	21	21	箇所	業務取得
	ii	浸水面積(地域排水)	10.1	10.1	10.1	ha	業務取得
	iii	浸透樹設置基数	6,679	6,781	6,957	基	業務取得
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	78,686	28,376	金額(千円)	内容		94,389	
国支出金(千円)	0	0	14,031	鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第3期)		0	
県支出金(千円)	0	0	5,374	道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事		0	
市債その他(千円)	41,700	14,400	1,050	浸透樹設置モニター工事		64,400	
一般財源(千円)	36,986	13,976				29,989	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、放流先の整備状況や費用対効果を考慮し事業を進める必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事、道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事、馬込沢地区ポンプ設置工事、浸透樹設置モニター工事、東道野辺五丁目地区地域排水整備工事設計委託	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事、道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事、浸透樹設置モニター工事を完了した。	54,046	52,750	当初	54,046	28,376	H28からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0		現年分	28,376
③達成状況	未完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	馬込沢地区ポンプ設置工事、東道野辺五丁目地区地域排水整備工事設計委託はH30へ繰越したため。	平成30年度への繰越額(単位:千円)		11,202				

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	過年度から進めている貯留池の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取り組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図(対象をどうするのか)	河川の流量の調整を行う。 雨水の流出を抑制する。
②事務事業の概要	浸水被害の軽減のために必要な、河川調節池の整備と流出抑制を目的とした貯留池の整備を行う。整備にあたっては、河川の整備計画との整合を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南初富二丁目貯留池整備工事に伴う家屋等事前調査8棟を実施した。</li> <li>・南初富二丁目貯留池整備工事(継続費)を着手した。</li> <li>・串崎新田貯留池整備事業に伴う用地測量0.37haを実施した。</li> </ul>						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	河川調節池の暫定整備率	85.71	85.71	85.71	%	業務取得
	ii	河川調節池の整備率	57.14	57.14	57.14	%	業務取得
	iii	貯留量	40,421	40,421	40,421	m3	業務取得
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳			平成30年度予算	
事業費(千円)	75,453	5,792	金額(千円)	内容		129,600	
国支出金(千円)	0	0	3,273	南初富二丁目貯留池整備工事に伴う家屋等事前調査		0	
県支出金(千円)	0	0	2,322	串崎新田貯留池整備事業に伴う用地測量委託		0	
市債その他(千円)	51,500	1,300				97,200	
一般財源(千円)	23,953	4,492				32,400	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	放流先の河川整備が進まない中で、浸水被害の軽減を図るには、貯留池を整備することが最善の治水対策と考えられるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	南初富二丁目貯留池整備工事(継続費)、南初富二丁目貯留池整備工事に伴う家屋等事前調査委託、串崎新田貯留池整備事業に伴う用地測量委託	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	南初富二丁目貯留池整備工事に伴う家屋等事前調査委託、串崎新田貯留池整備事業に伴う用地測量委託を完了した。	44,990	46,460	当初	44,990	5,792	H28からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0		現年分	5,792
③達成状況	未完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	南初富二丁目貯留池整備工事はH30へ繰越したため。			流用・充当	1,470			
				平成30年度への繰越額(単位:千円)	40,000			

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	流域環境整備事業	会計	款	項目	多額 級数
		一般	8	3	20
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川管理課		
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	永東 昇		

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	鎌ヶ谷市の河川等施設に応じた点検方法の制定。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	鎌ヶ谷市の河川等施設に応じた点検方法の制定。
②①に基づく取り組み結果	国基準の情報収集と動向調査		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	河川、水路、調整池	意図(対象をどうするのか)	施設の機能維持
②事務事業の概要	河川、水路、調整池の適正な管理を行うため、除草・清掃やパトロールの委託を行うとともに、必要な補修工事を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の老朽化が進んでおり、大規模な修繕とともに、長寿命化のための対策が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	○河川管理委託      ○河川・水路清掃委託      ○スクリーン清掃委託 ○河川・水路維持工事						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	河川・水路に対する満足度	13.8	-	-	%	市民意識調査
	ii	河川・水路除草面積	58,610	58,610	58,610	m <sup>2</sup>	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	22,716	27,871	金額(千円)	内容	26,604		
国支出金(千円)	0	0	17,000	河川管理委託	0		
県支出金(千円)	0	0	10,850	維持補修工事	0		
市債その他(千円)	0	0			0		
一般財源(千円)	22,716	27,871			26,604		

IV 評価・検討

①課題	施設の老朽化に伴う大規模な修繕や長持ちさせるための対策。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	法定管理者の責務として機能維持に努めることが必要なため				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	河川・水路の清掃・維持工事	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	河川・水路の清掃・維持工事	27,954	27,954	当初	27,954	H28からの繰越	0	
				H28⇒29繰越	0			
③達成状況	完了			補正	0	27,871	現年分	27,871
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
		平成30年度への繰越額(単位:千円)		0				